

これで分かった “ロータリー + **プラス**” part 2

ポイント 1 職業奉仕は なぜ Vocational Service なのか？

ロータリーでは いかなる宗教も認めていません。では Vocation とは天職と云いますが キリスト教と関係はないのかと疑問が残ります。

よく比較されます マックス・ウェーバーの「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」との違いは何でしょうか？

プロテスタントの教えは 職業は「天職」であり 他人が求める商品やサービスを提供すれば 隣人愛の実践につながると考えます。どれだけ儲けたかが隣人愛の指標と考えました。明らかに宗教に関係あります。

一方 シェルドンの「ロータリーの哲学」の考え方では 人間を含むあらゆる万物は 創造主 (Creator) が根源にあると云っています。しかし神 (GOD) は 宗教上の神ではなく「宇宙の摂理」 Providence のことをさしています。

(宇宙の摂理—全知・全能・普遍の実存—(根源)と表現している) スピノザ著エチカの「神すなわち自然」に近い考え方と思われれます。(汎神論)

こちらは 奉仕の程度によって利益(儲け)は大きくなると云い 利益(幸福)は神の恩恵であるとか、神のために働くとかは云っていません。

因みに シェルドンのロータリーの哲学の考え方は 1910 年ごろから当時の親睦と相互扶助の目的を補完するため導入されますが 職業奉仕 (Vocational service) の表現は 1927 年に四大奉仕の一つとして承認されました。

ポイント 2・ 職業は利益を求め 奉仕は代償を求めないのでは？

① 英語の Service には 有償・無償の両面の利他性の意味がある。
日本語の奉仕は 無償の意味と一般的に理解されている。

② 人間が地球上に生存以来 他の生き物とちがい「働く」ことにより 食糧をはじめ生活手段をとってきました。やがて職業・経済へと進展していき

ますが、この過程が個人だけでなく社会の豊かさに貢献してきました。

- ③ このことは重力の法則などの自然の法則と同じように 人間の普遍の法則とシェルドンは考えました。
- ④ この職業による利他性を“奉仕”と表現したことが特徴で ロータリーの存在する所以がここにあると思います。言い換えれば 職業は 奉仕の原点であり 利他的行動の典型と云っているのではないのでしょうか？

ポイント3・ “He profits most who serves best” とは

人の幸福は 奉仕の結果であり 近道はありません。
経営者や専門の職務のロータリアンにとっても同じことが言えます。

ビジネス上の利益は 奉仕の結果です。奉仕の火が大きければ大きいほど熱（利益）は高いのです。この原因と結果の関係を表しています。この優先順序が大切なのです。(Give and be Given)
一般論でいう奉仕活動と異なります。

ポイント 4 幸福（利益）満足 +Something とは

—人の尊敬・自尊心・物質的利益— （利益又は報酬の要素）

決して金銭・報酬（物質的な富）だけでなく 良心（自尊心）と同僚からの愛（畏敬の念）も含んでいる。ビジネスの場においては 顧客に優れた奉仕を行うことが 一過性でない 永続的な取引と利益をもたらすと云っています。

ポイント 5 奉仕は 誰がだれに どんなにするの？

—量・質・管理の状態— （奉仕の概念）

5-1 対象※となるものによって異なるが 信頼と満足を結果として得るには 商品と人の行いの双方に に正しい「質」と「量」「モード」がなければならない。

※

- ① 経営者が従業員へ ② 従業員が経営者へ ③ 両者で顧客への奉仕と云っています。

- ① 経営者と従業員の間においては 経営者は従業員に「金銭的な報酬」や「役職を与える」だけでなく 「モード」つまり その仕事の「やりがいや 満足感」を従業員が感じる経営を心がけ それに経営者の眼に見える「経営姿勢」の発信も忘れてはならない。そのことが 前述の「従業員の満足」につながります。ES
- ② 従業員は 規則正しく真面目に働き 新しい提案など仕事に前向きになる。
- ③ 顧客に対しては 商品の品質と金額だけでなく モードとは 接客態度や説明責任・電話の対応や帳票の正確さ・速くて正確な配達などを云っています。CS

ポイント 5-2 経営者（トップ）の役割は？

—知性・感性・体力— （人間力の要素）

会社にとって トップは 健康はもちろん 知性と真善美の分かる感性を磨くことに努めることが大切です。つまり奉仕の力とは 経営者の力量が尺度なのです。経営者がどんな時代であっても「世のため・ひとのための公器」と会社を自覚し 借り物でないビジョン（志・使命感など）を熱く語る時社員にとっては「目に見えない最高の報酬」となるのではないのでしょうか？

地方都市の後継者は 三代目四代目の時代ですが、特に意識したいものです。
「売り家と唐様で書く三代目」（江戸川柳）



ポイント 6 ロータリーとは **なんか よく分かりませんが？**

6-1 決議 23-34 ってなんのこと？

欧米社会の基本的な道德観で
ノブレス オブレージュ

「ロータリーは 基本的には 一つの人生哲学であり それは利己的な欲求と 義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情の間に常に存在する矛盾を和らげようとするものである。 （利己と利他の調和）

この哲学は Service above self と云う奉仕哲学であり、
He profits most who serves best という実践的な倫理原則に基づくものである」と記載されています。
背景は…

社会活動を実践することこそ奉仕だとする「実践派」と利他の心で事業を行い「奉仕の心を形成する理論派」との論争の経過があった。つまり 職業奉仕と社会奉仕の折衷案を示したドキュメントで、現在のロータリーの綱領の基礎となっています。

- ① “Service above self” (自己研鑽の奉仕・奉仕第一自己第二超我の奉仕)
- ② “He profits most who serves best” (職業奉仕のモットー)

○ “Ideal of service” **奉仕の理想**

生活・事業など私たちの暮らしの中で 理想と現実の乖離は避けられない。私達は “理想” 語り合い 生き方を認識・追及しながら生きていくことが大切です。 **SDGs (エス ディ ジーズ)** か？
三層構造か螺旋構造 ではないかと考えます？

「収益と社会貢献・社会課題の解決は対立させるものでなく両立させるべきものである」とする理念

6-2 ロータリクラブとは なんですか？

職業人の代表として ロータリーの哲学を受け入れ・奉仕の理論が 職業および人生における成功と幸福の基礎であることを団体で学ぶ。(ただし ロータリーは 触媒の役割で それを率先垂範して行動するのは 個々人のロータリアンが基本です。)

- ① ・自分たちのあいだにおいても また地域社会に対しても その実際例を団体で示すこと
- ② ・各人が個人としてこの理論をそれぞれの職業および日常生活において実践すること
- ③ ・個人としてまた団体として大いに教えを説き その実例を示すことによって ロータリー以外のすべての人が 理論的にも実践的にも これを受け入れるように奨励すること

“ロータリーは人をつくり企業をつくり 世界をつくる力となり得ます”



「ロータリーの哲学」田中毅翻訳
手続き要覧 2013 年版他 参考